群教セ	G10 － 01
	平28.261集
	道 徳

お互いを信頼し、認め合うことのできる道徳的心情を育てる授業の工夫

――意見の交流を基にした役割演技を通して――

特別研修員　田村　嘉崇

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

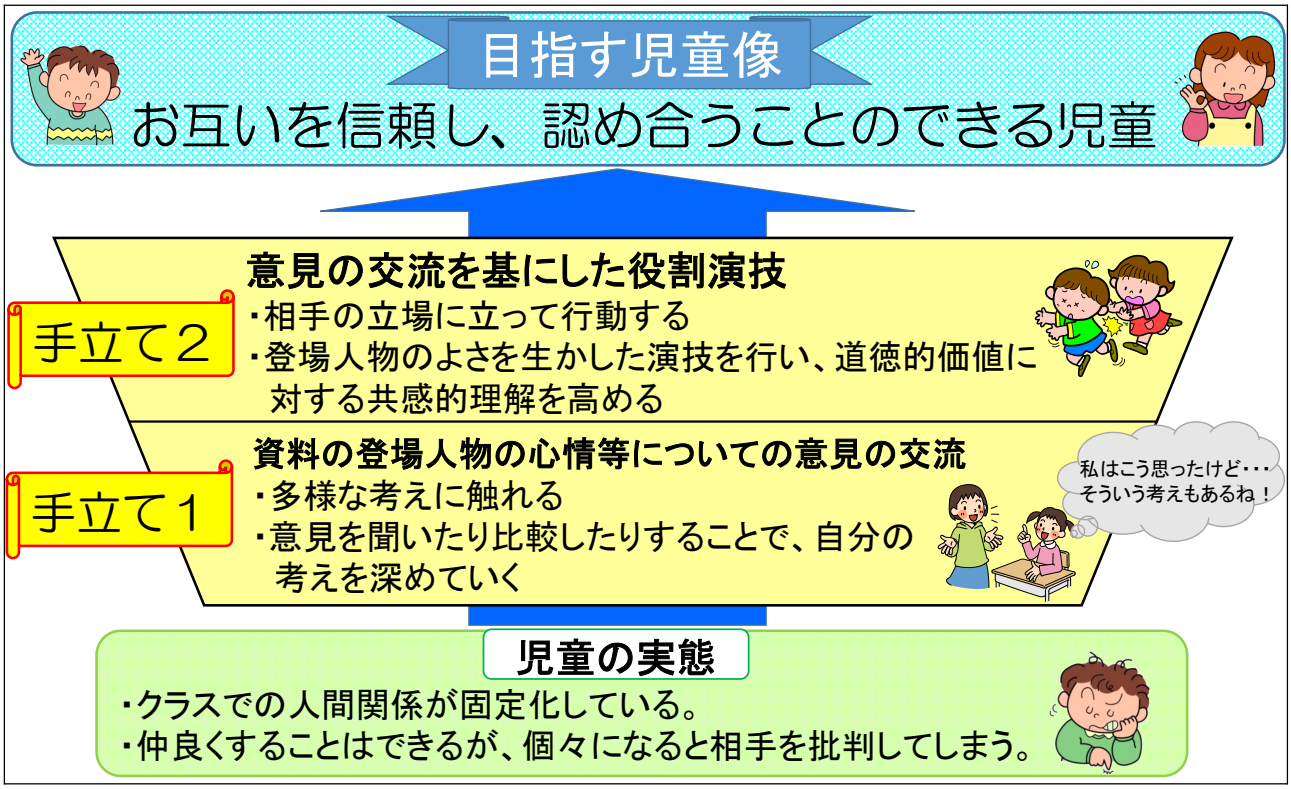
道徳的価値の自覚を深めるためには、価値の理解だけではなく、価値について自分との関わりで考えることを通して、他者理解や自己理解を深めることが重要である。このためには児童相互の意見の交流が不可欠になると考える。また、はばたく群馬の指導プランの道徳指導の基本として、表現活動は、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的理解を深め、自分との関わりで道徳的価値を捉えるのに有効だとしている。そこで、表現方法の一つである役割演技によって、体験的な活動を基に児童の考えを引き出せるようにしていきたいと考えた。

本校は小規模、単学級の少人数校であり、中学校までクラスのメンバーが変わることはない。そのような状況であることから、児童は幼少期よりお互いの立場が分かっており、それぞれの役割が決まってしまっている。また児童は、強い子の意見や行動等について我慢していたり、弱い子に対して口調を強めたりしてしまうことがある。それぞれの児童によさもあるが、なかなかそこに気付くことができないのが現状である。

そこで、ねらいとする価値に対して、資料の登場人物の心情や人柄についての意見を交流させる場を設定し、自分とは異なる様々な考えに触れさせ、他者の考えを認められる資質を養えるようにしたいと考えた。また、それを基に、その時、どうすればよかったのかを考えさせてから役割演技を行わせることで、他者理解にもつなげさせたいと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編においては、第４章第３節の５「問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導」の中に、（２）「道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫」がある。その中で児童にとって道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることは有効なこととある。そこで、授業改善において以下の２点の手立てについて考えた。

手立て１：資料の登場人物の心情や人柄について意見の交流を行う。また、登場人物の立場を変えて話合い、交流を行う。 手立て２：意見の交流を基に、それぞれの気持ちの揺れや葛藤などを感じ取り、相手の立場に立って考える役割演技を行う。

手立て１では、意見の交流に入る前には、児童に自分の考えを持たせる時間を必ず設定する。その後グループで意見の交流を行わせる。意見の交流の中で自分とは違う他者の考えを聞かせたり、比較させたりすることで、考えをさらに深められるようにさせていきたいと考えた。また、立場を変えて話し合わせることで、互いの立場を理解させることにもつながると考えた。

手立て２では、手立て１で行った意見の交流を基に、資料の中で、実際の生活で起こりうる場面を用いて具体的な演技内容（言葉や動き）を話し合わせ、その時どのような行動をとったらよいのか考えさせるとともに、登場人物と自分たちと重ねさせることで道徳的価値に迫らせていきたいと考えた。

また、役割演技を行う際には、教師による資料の選択が重要であり、資料分析が大切となる。どんな資料で、資料のどんな場面で使えるかをしっかり吟味することと、役割演技が人間関係を調整・発展させるのに重要な指導方法であることを認識しておく必要がある。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　手立て１の意見の交流では、自分の考えをあらかじめ書かせておくことで、自信を持って意見を言うことができた。また、資料が自分たちにとって身近な話になればなるほど、それぞれの登場人物と自分たちを重ねやすかったため、活発な意見の交流を行うことができた。

○　手立て２の役割演技では、児童自身が実際にそのような場面に出会った時、どのような言動をとるべきか考えるのに有効であった。また、資料内の登場人物の気持ちを推し測ることにも有効であった。

○　児童は今までなかなか友達のよさや考え方に気付くことができないことがあったが、授業を通して自分とは異なる様々な意見や考えに触れることにより、相手のことを認めたり、相手の気持ちを考えたりすることができるようになった。

２　課題

○　資料の登場人物の心情について意見の交流をさせたが、さらにねらいとする道徳的価値を深めていくためには、登場人物等の立場を変えた意見の交流を行ったり、役割演技に結び付けられるような発問を工夫していく必要がある。

○　道徳的価値を高める役割演技を行うためには、個人の考えを持つ時間を十分に確保し、意見の交流の中で多様な意見を出し合えるようにする必要がある。そのためには、自分たちの実際の生活で起こりうるような場面を取り上げたり、登場人物の感じ方や考え方を想像し共感できるような資料提示の仕方を工夫したりする必要がある。

○　役割演技を行う際には、アドリブで演技を行うことも重要であるが、ねらいを達成するためには決まったとことを演技させる必要もある。また、演者に演じた感想を聞くだけでなく、見ている児童にも感想を聞くことで、さらなる考えの深まりを持つことができると考える。

実践例

１　主題名　　真の友情　内容項目Ｂ－10（友情・信頼）
　　資料名　　「陽子とひとみ」　学研：一部改作

２　主題及び本時について

(1)　価値観

本主題は、小学校学習指導要領解説道徳編の第５学年及び第６学年の内容のＢ「主として人との関わりに関すること」の(10)「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」に位置する。

この時期の児童は、友達のことを互いに理解したり、助け合ったりするといったような、温かい人間関係を築くことが重要である。互いに協力して学び合い、それぞれの心情を分かり合うことで確かな友情が生まれる。真の友情とは、上下関係のない対等な関係でなければならないと考える。

(2)　児童観

本校の児童は固定化された人間関係を築いており、休み時間や放課後の遊びも決まった子としか遊ばない。これらの実態から、友達の考えやよさに気付くことができるようにしていきたいと考えた。

１学期には友達の気持ちを理解し、クラスで助け合うためにはどうしたらよいのかという実践を行ったところ、児童は困っている子がいたら進んで声を掛けるや、いけないことはいけないとしっかりと伝えるなど、相手のことを思いやる言葉を記述することができた。

本時においては友情についてさらに深めていきたいと考え、友達のよさについて考え、児童同士のさらによりよい関係をつくっていきたいと考えた。

(3)　資料観

本資料は、登場人物の「陽子」と「ひとみ」が運動会を間近に控え、一緒に徒競走の朝練に取り組む話である。朝練の結果、体育の授業の時、足が速く、練習に誘ってくれた「陽子」に「ひとみ」が勝ってしまう。「ひとみ」に対して周りの児童は称賛するが、今まで走ることに負けたことのなかった「陽子」は、落ち込んだ様子でその場に佇む。

その後会話がないまま、翌日「ひとみ」が「陽子」に話し掛けることを決めたところで話は終わる。

本時では資料後半部「ひとみ」が「陽子」に声を掛ける場面を一部改作し、「陽子」と「ひとみ」のそれぞれの相手を思いやる気持ちをグループで意見の交流をさせた上で、それを基に役割演技をさせることとした。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は、グループでの意見の交流を行ったり、それを基にした役割演技を行ったりしながら、児童の道徳的価値を深めたいと考え、以下の手立てを実践した。

手立て１：登場人物二人の、相手を思いやることのできるよさについて意見の交流をする。
　①二人のそれぞれのよさを個人で考えワークシートに記入する。（個）
　②三人と四人の２グループに分かれ、それぞれの班の中で司会等の役割を決めて意見の交流をする。（グループ）
　③グループで意見をまとめホワイトボードに記入し、発表する。（全体）
手立て２：出された意見を基に、翌日の二人の会話を考え、演技する。
　①グループで動きや会話を考え、実際に演技する。
　②演技した後で感想を聞くことにより、道徳的価値を深めていく。

本時の導入では、価値への方向付けのため、「自分にとって友達とはどんな人か」という発問を行った。

展開前段では、読み物資料を用いて登場人物の人柄やよさについて考え、意見の交流をさせた。

展開後段では、役割演技を取り入れ演技させることで、自分たちの日常生活で起こりうることとして捉えさせ、どんな言葉を遣えば良いのか、どんな行動をとれば良いのか考えさせた。

終末では、これまでの自分自身を振り返り、今後の自分の行動について記述させた。

４　授業の実際

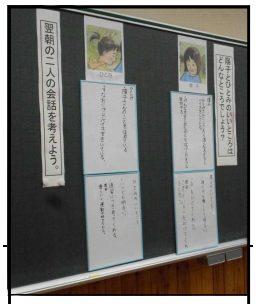
【導入】価値への方向付け

本時の内容項目（友情・信頼）について考えるための発問を行った。

T　：みんなにとって「友達」ってどんな人だろう？
S1：一緒に遊んでくれる人。 S2：相談に乗ってくれる人。 最初の発問から分かったことは、児童にとって友達の存在は深いものでなく、表面的にしか考えていないと言うことが分かった。 そこで、本時のめあて「友達の気持ちを理解し、さらに仲良くなるにはどうしたら良いのか考えよう」を提示し、友達について考えることを伝えた。

【展開前段】資料を用いて登場人物のよさを見付け、意見の交流をする

資料を読み聞かせ、登場人物の人柄を考えさせた後、二人の良いところについて個人で考えを持たせた後で意見の交流を行った。

T ：「陽子」と「ひとみ」のよいところはそれぞれどんなところでしょう？
個人で考えを持つ場面
「陽子」 S3：明るい性格で、誰にでも優しい。 S4：こうしたら速くなれるよってアドバイスをしてくれる。 「ひとみ」 S5：相手を褒めることができる。 S6：アドバイスを素直に受け入れることができる。
グループでの意見の交流の様子
最初にそれぞれが書いた登場人物の良いところを発表した。その際に自分はなぜそう思ったのかの理由も言わせた。 その後、出された意見を基に、付け足しや変更を重ねながらグループとしての意見をまとめさせ、ホワイトボードに記述し発表させた。   図１　意見の交流の様子 Aグループの発表内容 「陽子」　：みんなをまとめながら引っぱっていける。 　　：ひとみさんに速く走るためのアドバイスをすることができる。 「ひとみ」：「陽子」のことを褒めることができる。 　　：アドバイスを素直に受け取ることができる。 Bグループの発表内容 「陽子」　：誰にでも明るく優しく接することができる。 　　：困っている人を助けてくれる。 「ひとみ」：いつでも明るく、優しい。  図２　板書の一部 どちらのグループからも、登場人物二人が相手のことを思いやる優しさを持っていることが分かったという考えを聞くことができた。意見の交流をさせたことにより、個人で考えた時よりもさらに自分の考えを深めることができた。

【展開後段】意見の交流を基にした役割演技

グループで行った意見の交流の内容を基に、翌日の二人が会話する場面を設定した演技を行った。台詞や動き等についてはそれぞれのグループで話し合わせた。

T ：「陽子」と「ひとみ」の立場に立って、翌朝相手に対してどう声を掛けるか考えてみましょう。
役割演技の様子

どちらのグループも意欲的に話合い、意見の交流で出された二人のよさを生かした台詞や動きを考えることができた。

また、演技後にはなぜそういう言葉を掛けたのか、言われた時にどう感じたかの感想を述べさせた。

Aグループの演技

「ひとみ」：おはよう。

「陽子」　：おはよう。昨日は速かったね。

「ひとみ」：ありがとう。陽子さんが教えてくれたからだよ。

「陽子」　：今日は負けないように頑張るね。

図３　役割演技の様子

Bグループの演技

「ひとみ」：おはよう。

「陽子」　：おはよう。

「ひとみ」：今日も二人で練習頑張ろう？

「陽子」　：そうだね。私も負けないように頑張らなくちゃ。

演技した後の児童の感想からは、

「ちょっと気まずい気がしたけど、このままだともっと関係が悪くなると思ったから勇気を出した」や、「いつも通り声を掛けてくれたから楽な気持ちだった」などという言葉を聞くことができた。グループでの話合いの時も、相手のことを考えた言葉などを聞くことができた。このことから、意見の交流をさせてからの役割演技は道徳的価値を深めるのに有効であったと考える。

【終末】自己の振り返り

各グループの役割演技の後、「今までの自分は友達に対してどうであったか？」また、「これからの自分はどのようにしていきたいか？」という問いを児童に投げ掛け、記述させた。

以下は、児童の振り返りの一部である。

・友達の気持ちをよく考えて行動して、友達を傷つけないようにする。
・友達の気持ちを理解してあげる。
・もっと友達の気持ちを考えて、会話できるようにしたいと思う。
・友達と色々なことをもっと楽しくできるようにしていきたい。
・相手の気持ちを考えて行動したり、接したりできるようにする。

５　考察

意見の交流に入る前に、自分の考えや意見を持ってから活動に取り組めたことで、普段なかなか意見を言えない児童も自信を持って活動に参加することができた。また、意見の交流の中でお互いの意見を言い合うことで、それぞれの意見の共通点や相違点について気付くことができ、考えを深めることができた。

児童は役割演技を取り入れたことで、資料の中の出来事を自分たちにも起こりうることとして捉えることができた。また、演技直後に自分たちが考えた台詞や動き、演技した感想を聞くことで、今後の日常生活の中で問題が発生した時に、どのような言動をすればよいのか考えさせることにもつなげることができた。

このように意見の交流や役割演技に取り組んできたことで、児童は自分とは異なる意見に触れることができ、人はそれぞれ異なった考え方を持っているということに気付くことができた。それによって、終末の振り返りの場面において、今までの自分たちの生活や行動を反省し、相手のことを思いやることや、友達の気持ちを考えて行動することなどをワークシートに記述することができた。

児童にとって友達についての考えをさらに深めていくためには、資料のどの部分をどんな発問として扱うのかが重要であり、また、演者だけに感想を求めるのではなく、演技を見ている側の児童にも感想を求めることで考えの深まりや道徳的価値の深まりを持たせることができると考える。